

令和2年度新任図書館長研修
質疑応答書

科目名：図書館における障害者サービス

講師名：佐藤 聖一

質 問

実際問題として、電子書籍は来館せずに利用でき、場所も取らず、劣化もせず、延滞もない資料として非常に優れたコンテンツと考えているが、視覚障害者の方にとって、本当にアクセシビリティが高く、使い勝手が良いものなのか？利用率は高いのか？

回 答

ご質問いただきありがとうございます。

ご質問のように、電子書籍には大変優れた点があります。ただし、現在図書館で導入されている電子書籍システムは視覚障害者にアクセシブルなものではありません。一応、視覚障害者が利用できるものもありますが、利用に耐えるアクセシビリティが確保されているとはいえません。

また、アクセシブルな電子書籍であっても、読み（音声）は合成音声になるため、漢字の誤読が生じる、肉声に比べて読み方が不自然で聞きにくい、図表の説明がないなどの課題もあります。

そのため、現在広く使われている肉声による音声デジタイズ等の障害者サービス用資料と、アクセシブルな電子書籍を用途によって使い分けることが望ましいものと考えます。

しかし、前述のようにアクセシブルな電子書籍があまりなく、特に図書館に導入されている電子書籍のシステムはまだまだなので、「使い分ける」までいっていないのが現状です。

以上の状況から利用率という意味ではほとんど利用されていません。

なお、仮にある程度アクセシブルな電子書籍があったとしても、音声パソコンやスマホ等で自由にインターネットの利用や資料利用ができる視覚障害者が限られているという問題もあります。